

地方部における観光コンテンツ 充実のためのローカルガイド人材の 持続的な確保・育成に向けた課題

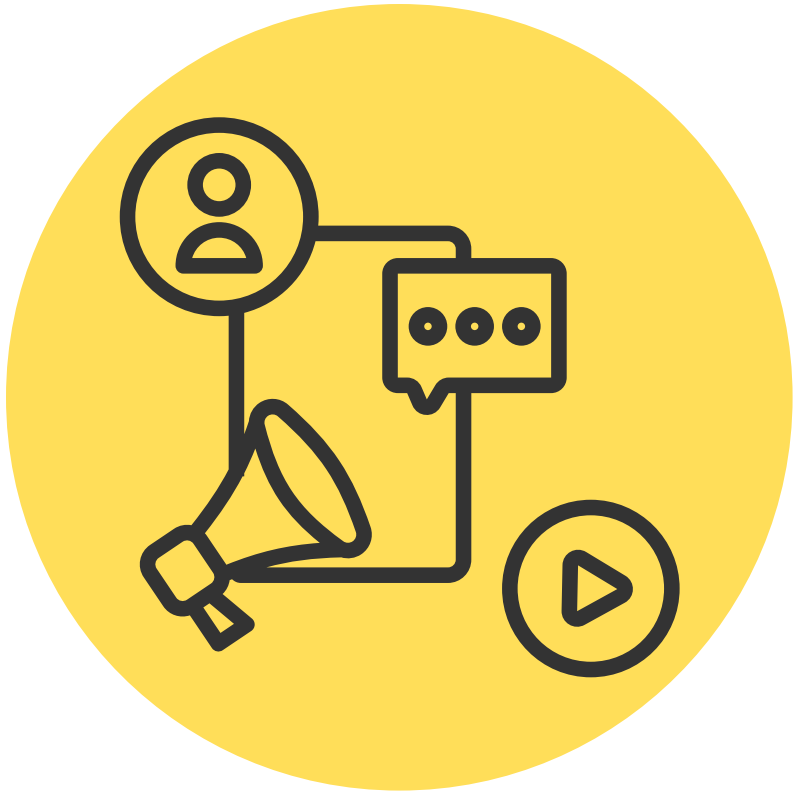


株式会社M&Company共同代表
JAPONISMEガイド
全国通訳案内士
白石実果



現場から見た課題分析

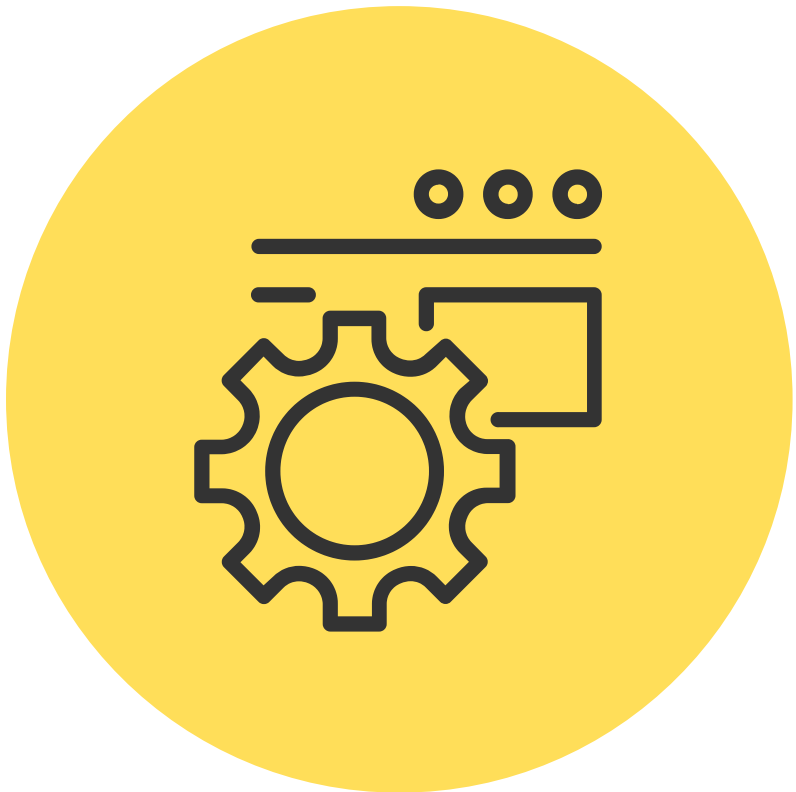
数



質



原因



改善点と
解決策

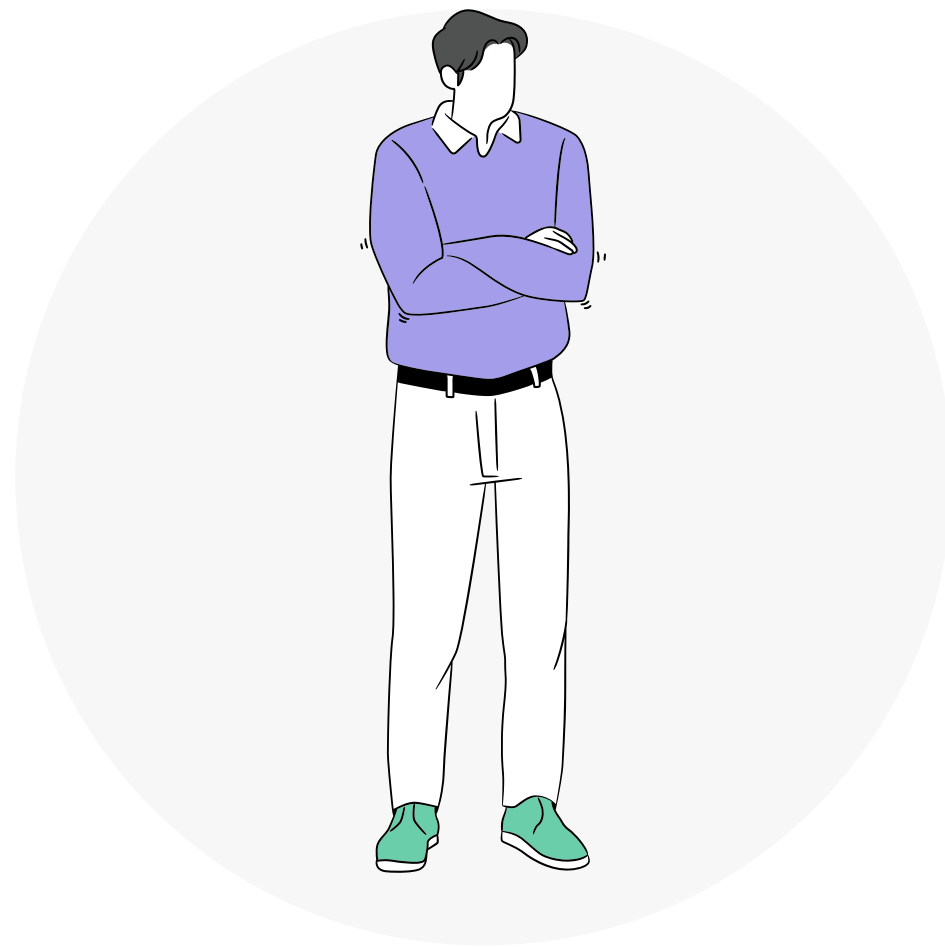


数

現場でガイドは足りているのか？余っているのか？



1. ローカルガイドの実際の需要



金沢や高山など、観光地として成立している場所ではガイドが足りていない。

一方で、観光地として弱い場所ではガイドを育成しても需要が少なく、ガイドが余ってしまう。

2. 観光地として弱い場所の課題



自治体の枠にとらわれたコンテンツ開発ではなく、広域連携を視野に入れた観光プロジェクトが必要

旅行者目線での魅力的なコンテンツが不足している

質

ローカルガイドの質の現状は？向上策は必要か？



ローカルガイドの質



プロ意識の欠如が見られる

自治体やDMOによる無料研修は受け身の姿勢を助長している。

旅行者目線での人気ガイドのように、仕事としての標準的なスキル向上には年間を通じた実務経験が必要だが、多くのガイドは副業として活動している。

原因



1.地域内コンテンツの弱さ

単体ではわざわざ訪れるほどの魅力がない。

自治体の枠にとらわれたコンテンツ開発が多い。

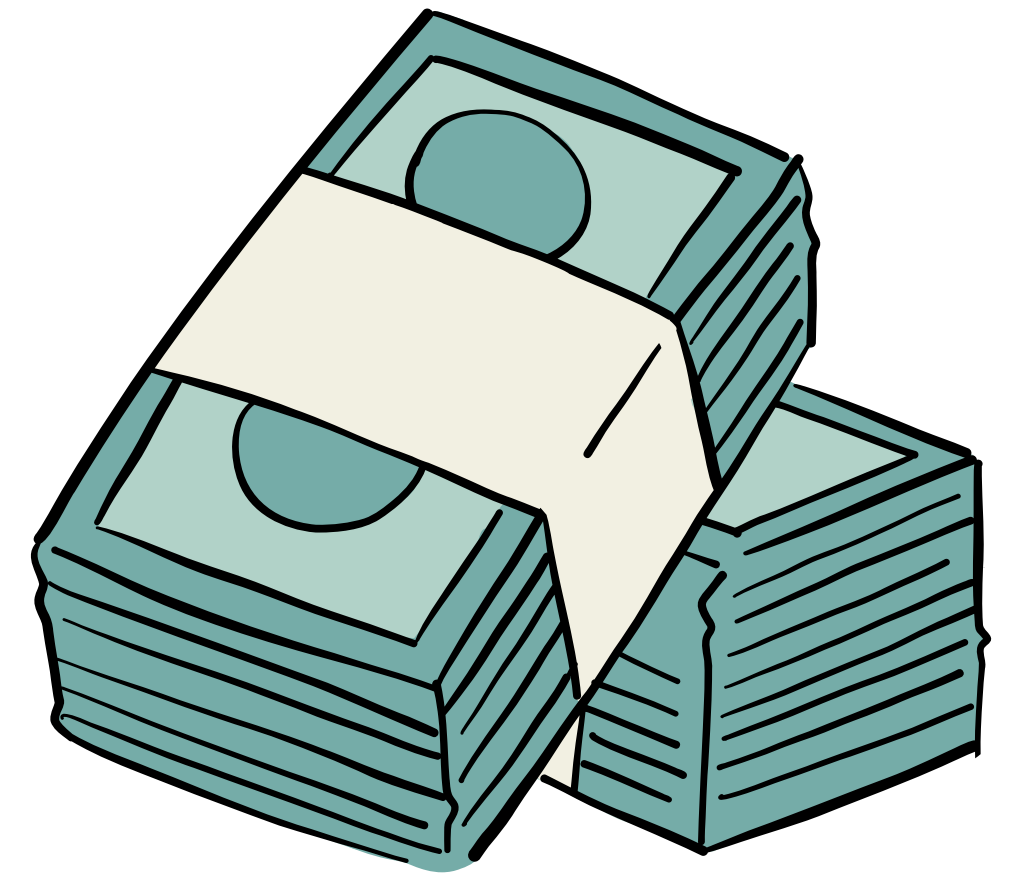


2. 繁閑の差が激しい（生計を立てられる仕事ではない）

有名観光地でも地方はオフシーズンには仕事が減る。

他の地域で仕事をする場合もあり、在住地でのみ仕事をするわけではない。

優秀な外国語ガイドはガイド以外に他に割の良い仕事がある。



3. ガイドを支える制度の不足

怪我や病気、妊娠などで仕事ができなくなると無収入になる。

フリーランスが多く、産休や育休が取りづらい。

地域限定通訳案内士は自治体のサポートがあるが、全国通訳案内士にはサポートがない。



4. ガイド自身の営業努力不足

ガイド自身が積極的に営業活動を行っていないことが多い。



5. 報酬が低い

評判が良いガイドもそうでないガイドも基本的に同じ料金である。

質が低いガイドを雇わないという選択もあるが、その際に質の高いガイドの確保が難しい。



改善点と解決策



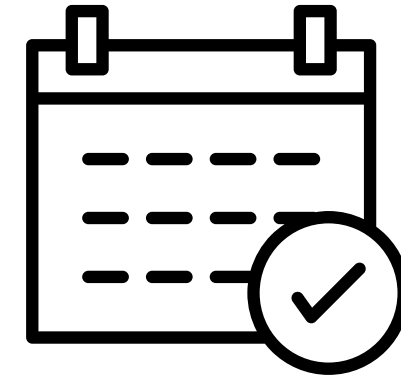
解決策



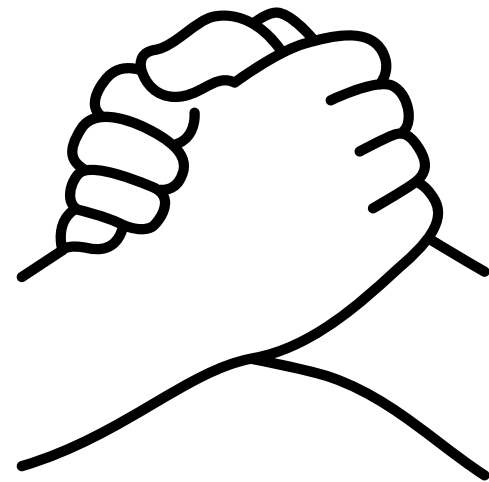
需要の増加



ガイド育成



繁閑差の緩和



支援制度



営業力強化



報酬見直し

解決策1 需要の増加と観光プロジェクトの連携



需要の増加

地域を超えた広域連携で観光プロジェクトを開発し、観光客の訪問を促進する。

旅行者目線での魅力的なコンテンツを開発するために、旅行者のニーズやトレンドを把握する。

解決策2 ガイド育成プログラムの改善

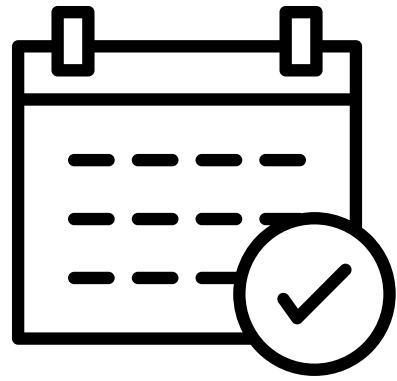


ガイド育成

無料研修だけでなく、有料の専門的な研修を提供し、ガイドの質を向上させる。

年間を通じた実務経験を積むためのインターンシップや研修制度を設ける。

解決策3 繁閑の差の緩和

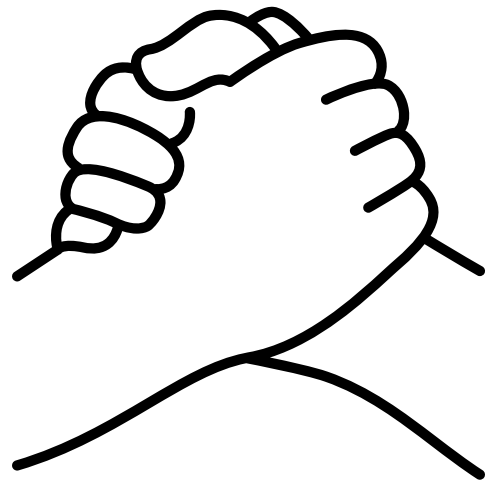


繁閑差の緩和

オフシーズンでもガイドが活動できるような新しい観光プログラムやイベントを企画する。

ガイドが他の地域でも活動できるよう、広域ガイドネットワークを構築する。

解決策4 ガイド支援制度の充実



支援制度

オフシーズンでもガイドが活動できるような新しい観光プログラムやイベントを企画する。

ガイドが他の地域でも活動できるよう、広域ガイドネットワークを構築する。

解決策5 ガイドの営業力強化



営業力強化

ガイドが自らのサービスを宣伝・営業するためのスキルを身につけるための研修を提供する。

オンラインプラットフォームを活用して、自らのサービスを広く宣伝する手段を提供する。

解決策6 報酬制度の見直し



報酬見直し

ガイドの質に応じた報酬制度を導入し、評価の高いガイドには高い報酬を提供する。

ガイドの質を評価するためのシステムを構築し、評価に基づいた報酬を設定する。